広報 ましき
MASHIKI TOWN PUBLIC RELATIONS
April 2015 No463

Good Job
グッドジョブ!!
現場で働くプロに聞く!!

陸上自衛隊

Japan Ground Self-Defense Force

名前
髙尾（たかお） 俊介（しゅんすけ） さん（馬水南）

部隊名
高遊原分屯地 西部方面航空隊

職歴
14年

本町が「空の玄関」と呼ばれる所以でもある熊本空港には、陸上自衛隊高遊原分屯地が併設されている。そのため滑走路には、民間航空機だけでなく迷彩柄のヘリや輸送機の姿も。今回は日夜航空機に携わる自衛官、髙尾俊介さんに話を聞いた。

悪条件下でも人命第一

現在、航空隊長の専属ドライバーである髙尾さん。そこに至るまでの5、6年間、ヘリの整備を担当していた。ヘリの巨大なエンジンやトランスミッションなどを交換・整備する、といった高度で精密な技術を要する業務だそうだ。

「演習だと難易度が格段に上がります。山に天幕を張り、その中でヘリの整備を行います。演習中は敵に見つからないよう、最小限の照明なので、ほぼ暗闇です」

ほんの些細なミスが人命に関わる任務のため、整備の見落としや、部品・工具の紛失はご法度。もし部品などを紛失した場合は陽の暮れた山の中であろうと、見つかるまで捜索となる。

「絶対に事故は起こせない。ですので神経質になるし、そこまで徹底します」

国防の志から生まれる絆

自衛官になりしばらく経つと、昇任試験を受験できる。この試験が最初の難関という。採用にもよるが、自衛官を続けるためには一定の期間内にこの試験をパスしなければならない。髙尾さんも苦労したそうだ。

「仕事を終えてから夜遅くまで、同期（隊員）と一緒に体を鍛えたり、勉強したり。一つ屋根の下で励まし合いながら昇任を目指しました」

甲斐あって髙尾さんは合格の吉報を得た。喜び勇んだが、同時に同期隊員が試験に落ちたことを知る。

「彼は試験を最後に任期満了で退職しました。自衛官にとって〝同期〟とは同じ教育隊で厳しい訓練を乗り越え、同じ釜の飯を食った兄弟のような存在。結果を聞き胸が締め付けられました」

退職となった同期隊員の最後の見送りに、髙尾さんは「行けなかった」という。

「やっぱりみんながいる前で泣けないと思って。後日会って力一杯泣きました」

「困難な状況下でも全員で助け合うことができるのは、強力な絆があるからです。そして全員で一つの目的を成し遂げる。そこに自衛官としての喜びがあると思います」と髙尾さんは話す。

「国防に携われることも、家族のような仲間ができることも自衛官ならでは。やる気がある人にはぜひ入隊してもらいたいですね」

▶（左写真）部隊で行われる競技会で力走する髙尾さん。自分の職務だけでなく、自衛官としての体力向上も欠かせないため、定期的にこうした競技会が開催されている。
▶（右写真）ヘリのエンジンを整備する髙尾さん。航空機の場合、規定された飛行時間で整備を行うそうだ。

宇城募集案内所では自衛官を目指す人を募集しています。詳しくはお問い合わせください。
問い合わせ先／宇城募集案内所　☎0964-23-2047

発行／益城町　編集／秘書広報課　〒861-2295　熊本県上益城郡益城町宮園702　TEL 096-286-3111　FAX 096-286-4523
http://www.town.mashiki.lg.jp/　<広報係メールアドレス> kouhou@town.mashiki.lg.jp　印刷／佛坂野印刷所　本紙は再生紙を使用しています

UD FONT 分かりやすく、読みやすい、間違えにくい